自己評価の結果について

学校法人北邦学園
認定こども園いちい幼稚園・保育園

令和４年度に実施した認定こども園いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神　『 自然から学ぶ 』

１　本園の教育目標

◎思いやりのある子　　◎考える子　　◎たくましい子

【 各学年のねらい（年間） 】　年齢ごとに基本的な考え方を記述しています

年　齢	年間のねらい
０歳児	保育教諭との関わりを通して安心した気持ちで過ごし、自分から興味をもって遊ぶ楽しさを感じる
１歳児	いろいろな遊びや活動に積極的に参加する中で、保育教諭や友達と一緒に過ごす楽しさを感じる
２歳児	いろいろな遊びや活動を通して、自分なりに気持ちを表現し、保育教諭や友だちと一緒に過ごす楽しさを感じる
３歳児	様々な遊びや活動に興味や期待をもって参加する中で、自分の気持ちを言葉で表現しようとしながら、保育教諭やいろいろな友達と遊ぶことを楽しむ
４歳児	様々な遊びや活動に意欲的に参加する中で、いろいろな友達に興味や関心を持ち、気持ちを伝え合いながら関わることを楽しむ
５歳児	いろいろな遊びや活動に自発的に取り組む中で、友達の姿を認め合いながら、一緒に目的に向かうことややりとげる充実感を味わう

評　価　内　容	自己評価
・　１ 年間コロナ禍での園生活だったが、いちいの保育の特色であるお話の世界から子どもたちの遊びの発展へつなぎ、日常の保育や行事活動においてもどの年齢も表現豊かに楽しむ姿が見られており、概ね目指してきた姿に達することができた。 ・　０歳～２歳児の乳児クラスでは、園庭やお散歩に出かける機会を増やし、発達段階に応じた遊びからそれぞれの成長につなげることができた。 ・　３歳児クラスでは、いろいろなことの興味を持つ姿が見られる反面、個別の援助を必要とする場面が多くあり、補助者を増員するなど安全面に配慮しながら丁寧な対応を行った。後半には、言葉で表現することで友達との関りも増えるなど成長の跡が見られる。 ・　４歳児・５歳児では、友達との関係性も豊かになり、協力する姿や集中して取り組む姿から成長を感じる場面が多く見られた。また、年少児との関わりでは、優しく接するだけでなく、危ないときには注意を促すなど頼もしい一面もあり、他児を思いやる気持ちなど教育目標に近づけられたのではないかと考えている。	「Ａ」

２　重点的に取り組んだ目標・計画について

項　目	令和４年度における取組
１．保護者との連携	・　『コドモン』を有機的に活用し、より分かりやすい情報提供に心がける。（継続） ・　園で過ごす様子をブログで配信するほか、些細な出来事でも速やかに連絡を取り、お子さんの成長や健康状況などについて共有していく。
【自己評価】 「Ｃ」	【評価内容】 ・　前年度のアンケートや反省をもとに重点目標としたが、配信のタイミングや内容において記載ミスやわかりにくいといった声もあり、情報提供や発信をするにあたり、慎重さが求められる結果となった。 ・　これまで乳児クラスのみだったコドモンによる検温報告の方法を 1 月 11 日より 2 号園児及び新 2 号園児の方に導入を開始し､1 号園児は 3 学期から導入したことで、乳児と幼児に在籍する保護者から「楽になった」と高評価をいただいている。 ・　幼児部門では、クラスごとに週一回活動の様子を写真と短いコメントでブログ配信を行っているが、配信時間がまちまちであるとの指摘をいただく。 ・　保護者より「園での活動の様子がもっと知りたい」とのご意見から送迎時に玄関先で見られるようにホワイトボードを用意し、クラスごとの活動の表示を行った。 ・　公式ＬＩＮＥを開設し、試行的に不定期ながらＳＮＳを利用した未就園児クラブの情報発信を行っているが、まだその成果は得られていない。次年度も継続して行うことで定着化を図りたい。
２.職員間の連携	・　昨年学園として制定された｢クレド｣をもとに設定したスローガンを意識していく。 ・　日々の業務及び学園内外の研修を通して全職員のレベルアップを図ると共に新卒採用職員のフォロー体制を構築し、職員を育成していく。 ・　業務改善の一環として、行事等への取り組みにおける協力体制を構築する。（継続）
【自己評価】 「Ｂ」	【評価内容】 ・　今年度のスローガン『笑顔と感謝でチャレンジを！』として、子どもにはもちろんのこと、来園するすべての方に、また職員間においても笑顔を大切にすることを掲げたが、職員間においては浸透しきれていないところがあった。 ・　新卒者２名の配置があり、学園として今年度から新設されたシスター＆ミスタープロジェクト（略して「シスプロ」という）により、学年ペアの職員をシスプロに任命し、日常業務や日案指導などで日ごろからコミュニケーションを図るとともに、姉妹園に配置されている同期採用の職員とも研修にもオンラインで参加し、互いの思いなどを共有しながらフォローしていくことができた。 ・　行事等への取り組みにおける協力体制では、制作物などにどの職員も積極的に関わっていた。

項　目	令和４年度における取組
３.乳児・幼児の交流	・　身近な園生活の中で、交流の機会をもつ。 ・　週案での計画を綿密に立て、無理のない交流をもてるようにする。 ・　研究保育などを通して、様々な年齢での成長や様子を学ぶ機会を設ける。
【自己評価】 「Ａ」	【評価内容】 ・　長期休みには、乳児クラスとどんぐり組・預かり組とで食育（おもちつき）の機会を設けたほか、遊戯室にて一緒に遊ぶなど触れ合う時間を設けた。 ・　４歳児クラスのさくら組は１歳児クラスと、いちょう組はふじ組と交流を持つことができた。 ・　スムーズな進級につながるよう２歳児と３歳児との交流する機会を設けた。 以上のことから、上のクラスの子どもたちにとっても緊張しながらも楽しむ姿が見られ、計画した内容や目標は概ね達成できた。今後も更なる機会を増やしていくなど乳児部門と幼児部門の職員間の連携を深めながら進めていきたい。
４.新型コロナウイルスに対する衛生管理	・　基本的な感染対策（共有部分の消毒、換気、手指消毒、マスク着用など）を徹底していく。 ・　陽性者が出た際の速やかな対応により感染拡大を防ぐ。 ・　区内の感染状況について情報収集しながら、子どもたちや職員の安心・安全な運営をしていく。
【自己評価】 「Ａ」	【評価内容】 ・　今年度は新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖は、５月に１歳児と２歳児、１０月には５歳児（こぶし組）であったが、各ご家庭の協力により園を起点とする感染拡大は防ぐことができた。 ・　１年を通して国や市の対応も変化しており、学園として統一した見解をもとに柔軟に対応することができた。 ・　これまでの２年間、ほとんど発生していなかったインフルエンザ（Ａ型）が２月に急拡大したことで、園医とも相談し、３歳児（もみじ組）と５歳児（こぶし組）で３日間の学級閉鎖を行った。それ以降の発生はごくわずかであり、適切な措置だったと考えている。 ・　基本的な感染対策（共有部分の消毒・手指消毒・換気）は継続しながらも、マスクの着用に関しては国の動向や様々な状況をみながら判断して対応していきたい。

項　目	令和４年度における取組
５.子育て支援への取組み	・　未就園児クラブの充実を図る。 ・　園庭開放の土曜日開催、LINE アプリによる情報発信など新たに実施していく。 ・　オンラインによる個別相談会の開設（子育てや入園に関することなど）
【自己評価】 「Ａ」	【評価内容】 ・　未就園児クラブとして、キッズクラブ２コース（ひよこ組・うさぎ組）を開設。年間１５回を行う。各コース定員１１組を募集していたが、定員を満たすことができなかった事は反省点である。広報活動として、ポスターの掲示やチラシの配布を近隣児童会館やコンビニエンスストア、スポーツクラブなど協力いただけるところは新規開拓できたが、参加者の多くは口コミまたはホームページからの情報収集という結果であった。 ・　園庭開放では初めて土曜日開催を試みたところ、第１回目は１０組以上の参加となり、また、父親の参加が多くみられ、平日にはない賑やかな光景となった。しかし、その後の参加は数組の参加にとどまり、開催方法や内容についての再考が必要である。 ・　公式 LINE を開設。当初は無料コースということで配信制限があり、フォロワーが少なかったが、有料コースに切り替えた後は週１ペースで配信することでフォロワーも２００人を超え、ホームページ以外の情報発信ができている。また、ホームページへのアクセス件数では幼稚園部門の厚別区内で第１位となり、ホームページのリニューアルによる効果があった。 ・　オンラインによる個別相談会については、開設拓する機会がなかった。

〔評価の観点〕

A	成果を上げている
B	ある程度成果を上げている
C	もう少し努力が必要である
D	改善が必要である

３　総合的な評価結果について

【自己評価】	【評価理由】
「Ｂ」	・　年度末保護者アンケートでは、回答率が前年度を大きく上回った。その中でも自由記載へのご意見が１００件（前年度７３件）あり、高評価をいただけている反面、細かなご指摘や改善に向けてのご意見など多岐に渡っており、詳細を分析しながら運営に生かしていきたい。 ・　今年度においても五つの課題に重点的に取り組み、まだまだ改善の余地があるが、子ども一人ひとりの成長を見据えた教育・保育活動の提供と、感染症対策と事業の継続においては、当初の目標は達成できたものと考えている。 ・　３歳児クラスに個別な援助が必要な園児が複数名いたが、その都度、保護者と連絡を取り合い、また、相談を受けながら丁寧に対応しており、保護者の理解と協力を得ながら進めることができた。 ・　新型コロナウイルス感染症により２年間で出来ていなかった参観日やクラス懇談会を開催することができ、保護者と保育教諭だけでなく、保護者同士の交流も進められた１年となった。 ・　コロナやインフルエンザなどの感染症に罹患した職員が相次いだことで、シフトが組めず適切な保育ができない時期には、多くのご家庭が家庭保育へのご協力をいただけたことで休園措置をとることなく運営できた。 ・　昨年、全国的なニュースとなった園バスの置き去り事故や園児への虐待報道などに対して、直ぐに学園としての対応を協議し、バスの運行マニュアルの見直しやバスの点検などチェックシートを活用し安全に努めた。 ・　保護者対応について園の保育体制や連絡体制及び職員間の連携不足などの指摘を受けるなど苦情申立に至る事案があり、深い反省と共に同じことを繰り返さないよう仕組みの見直しを進めていく。 ・　幼保小連携により、もみじの森小学校、もみじの丘小学校の協力を得て、５歳児クラスと５年生の交流を行うことができた。今年度の評価・反省を次年度に生かして身近にある小学校との連携をさらに深めて行きたい。

４　今後取り組む課題について

課　題	具体的な取組み
1.　新設クラスの スムーズな運営	・　早期教育の高まりからニーズの多い満３歳クラスの開設に向けて、年少クラスの保育室の工事を春休み期間に行い、６月１日より開設することとなる。 ・　２歳児（３号認定）クラスとも連携を取りながらスムーズな運営に取り組む。
2.　職員の連携	・　幼児部門においては、２号園児と新２号園児が増加傾向にあり、預かり保育に従事する職員と幼児担任が子どもに対する連携を図るためのしくみを早期に検討していく。 ・　コドモンによる保護者からの連絡が確実に担任及び関係する職員（バス添乗者など）に伝達事項が伝わる仕組みを作る。（伝えた内容が確認できること）
3.　保育環境の充実	・　ＰＥＺ保育の着実な実施に向け、職員の相互理解と取り組みの趣旨やねらいの基本的な理解を深めて行く。（継続） ・　絵本や児童文学を基本とし、子どもたちの好奇心や考える力を育む環境構成に取り組む。また、姉妹園等の効果の挙げている取り組みを参考にするなどレベルアップを図る。
4.　仕事の効率化と 働きやすい職場づくり	・　新体制がスムーズに機能するよう、職員一人ひとりの目標管理と主体的で良質な保育に向けた準備において学年担任との情報交換を密にして、見通しを持ちながら効率的な業務の遂行を目指す。 ・　勤務時間を有効に使えるよう、管理職が意識して職員体制や勤務体制を整えていく。 ・　各職員がスキルアップ、レベルアップを目指せるよう学べる環境を整え、積極的に研修に参加するよう促していく。（継続）
5.　効果的な広報活動	・　ホームページや LINE などを機能的に活用し、的確な情報発信に努める。 ・　在園児への保護者のニーズに合った情報提供を適宜進めていくと共に保護者からの意見をいただきながら、改善を図っていく。